夕刊
磐城新聞
十二月十二日發行
定價 一ヶ月 金六十五錢（郵税 金拾五錢）
廣告料金（普通欄 ……）
編輯印刷兼發行人 柏木哲
福島縣石城郡平町田町十六番地
發行所 磐城新聞合資會社
登錄交信電略（タイラ イワキ） 平局私書函第十二號 電話五六四番
（日曜祭日翌日休刊）

坂下門外の狼籍

八幡 秋月

下

昇く陸尺共は賊の背後に迫るを知るや、氣も顛倒して常の如く昇く能はず、駕はさながら地に着いて引づらるる様にして進んだとか、小藥、師賊の駕に迫るや、小藥、師岡の兩氏は急に之れに馳せて阻めるも時すでにおそく細谷の一刀は無殘にも駕を貫いたのであつた。

然るに對馬守の運强きかな將た細谷輩の運拙きか、駕を貫きたる賊の一刀は駕の背當の板布團のへだゝりとたる駕の先進せるゆるみとに依つて、切つ先わづかに對馬守の背部を掠めたのみであつた。

是れと殆と同時に左方から駕に迫つた浪士相田は死を決して駕を刺んとせしが大小姓の村上、竹尾の二氏に阻まれて殪された。

即ち對馬守は此の機に身も輕く、するりと駕の右方に抜けて、徒歩のまま悠々と四邊に注視しつつ坂下門に向つたのである、此れをみた三島、大野の二浪士は好機逸すべからずとなして急に對馬守の背後に追ひ迫らんとしたのであつたが御後を慕ひて馳せ寄る上坂、村上、太田の三氏に阻まれて果さずつひに三氏の刃に殪されて仕舞つたのである

其の間に對馬守は小藥を隨行せしめて悠々と坂下門の大番所に入つた……と記錄に殘つてゐる。

即ち初め駕脇に一發の銃聲起つて白刃おどり、而してかごを抜けた徒歩の對馬守に毒刃を加へんとした二浪士の殪さるるまで、殆と電光石火。數十歩先にへだゝる先々の供人は驚いて馳せかへり之に參ずる暇なき間に事は終つて仕舞つたのである。

噫想へば幸にして衛士の防戰よく、行き屆いた爲めに櫻田門外の轍を踏む事なくして濟んだ背後に僅少の傷を受けたのみにして生命は全し得た、程なく其の傷も癒いた。

併しながら此處に起因した幕閣の傷は終に癒ゆる時なかつたのである。しかも傷を受けた對馬守は誤られたる風評の爲に身を退かねばならなかつた。

勤王黨か倒幕の旗幟としたる攘夷の不可能は既に自然の數ではあつたけど。

一は攘夷を叫び、他は開國を行ふ。

斯くの如く、各々其の來るべき大勢を豫知したる或るものに依つて其の勢力を爭ふ時、何れかゞ必ず其の鼎の輕重に支配されて滅せねばならぬのである。其の鼎の輕重をとぴらものは常に輿論の絕叫である世界出現の弊に怪異の叫びをあげた國民の聲は期せずして外夷を惡むの聲となつて起り、委く對馬守の爲には非となつて現れたのである。對馬守は輿論の前に誤られたる罪名をさへ着せられて葬り去られた。而して對馬守引退後は又幕閣に其の人なく、局面は急轉直下めぐるましく展開して世は維新となり、王政の日は昇り初めたのである（完）

埋火集

島田 忠夫

雀子の軒屋根ふみて音たつる朝の目ざめよ汝を思ふがね

若くさの愛しき妹を戀ふればか炊ぎゐる間も心にもちて

ひとり住み炊ぎわざにも慣れにけり洗ひまてする水汲みかよふ

現そ身のわれの念のはかなしや命に泌みて見む霜のいろ

もの思ひ多く疲るる術なさよ埋火掻きて暫しありたき

淸若き人のいのちに倚らむ時ひたぶるになる吾をいとほしむ

12月13日

△僧圓珍入唐（仁壽三）△江戸兩國橋成る（萬治三）△伶人に洋樂を習はしむ（明治七）△我第一軍海城を占領す（明治二七）△ボエルヘーブ生る。和蘭の科學者にして完成せる製藥の創始者也、醫學のみならず物理學、植物學に精通し、レーデン大學の講座を擔任し名聲内外に高し、彼れ人間に有功なる製藥を頒布して多くの人命を救ひしのみならず製藥術の基礎を創建せり（紀一、六六八）

時代醫語

○自然は我に慾を付け、われ慾を滿さむのみ自然は我れに活動力を付す、われ起つて活動せんのみ活動や慾や競爭や。何の意味なるかは問ふを要せざる也……（青年訓）

○活動力のある處、即ち人生也、活動力のなき處、即ち死也……（學生訓）

〜一日一禪〜

○

十里黃雲白日曛

北風吹雁雪紛紛

拈華微笑

赤裸々な陣中通信。今日も讀者に提供出來るが愉快だ◇七癒報國。富谷

汎君の丹心、◇慰問金品の寄贈が輻湊して氏名の一部を次號へ諒を乞ふ◇

佐川上等兵の馬革に包んだ屍を迎ふる日近づく◇古貯金帳を種に儲ける超尖端的新商賣

講談 俠艶 女長兵衛

東京 斯波南叟

（魚崎潮畫）

（八七）

お玉ヶ池の劍客花房權右衛門を殺したのは……此の岩附時次郎であつた事は前回の夫婦の問答で、大體御推測の事と存じます……此の岩附時次郎は會津藩の大野時右衛門の次男、幼名を藤市……お樂の親は馬廻り篠塚甚右衛門、共に性質が餘り好くなかつたところからお家御盛んの時には藤本丈右衛門……即ち殿樣の御愛妾お春の方の父で、專ら邪曲奸佞を以て取り入り、御愛妾の親を鼻に掛け忠臣を追ひお政治向を我物の様に扱つた人物、其藤本の腹心と賴まれ互に出入りを繁くするうち遂にた樂と藤市とは出來合つて終つたところがお樂の谷甚右衛門はそんな事は知らずに、お樂は辰巳午之助に嫁入させ、藤市もおさきと云ふ女房を貰つた、處が加藤家斷絕でチリ／＼バラ／＼になり、お互に祿を放れて致し方なくフトお樂と藤市とは困る中で燒け木杭に火が付き再び昔の戀仲に戻つたが藤市もお樂も籠ひ者にして置く程の都合も出來ず、轉がり込んでおさきお樂が同居する樣になつた、處が斯う云ふ家が滿足に納まつて往く筈がありません、いがみ合ひの絕え間か無いところへ段々貧困に迫つて來た、藤市は何處で聽き込んで來たのか、お玉ヶ池の花房權右衛門は却々な内福の上獨身者と聽き、三人謀つてお樂がお玉ヶ池へ乘込む事になり時期を見て權右衛門を無き者にし金を卷上げて其後元通りにならうと謂はば商持たせと云ふ奴、夫れに掛つて權右衛門は遂に非命の死を遂げるに至つた、長兵衛にすると丁度甘いところへブッかつたのだが、時次郎は思ひも寄らぬ事なのに相違ない……時『チェッ、何處から何うしてかぎ付けやがつたのだらう、夫にしても彼奴は全體何者だらう何う考へても御用聞きや手先とは思はれないが、ハテな！』さき『お前さん彼れはお玉ヶ池の廻し者かも知れないよ、紙入をソッと仕舞つて置き、あれでおどして私達の仲を割かうと云ふのぢやアないかね、妾を追出して彼の人を入れりやア納まりが着く、然うでなかつたら自分だけ好い兒になつて彼の品をお上へ差出そうと云ふ樣な魂膽では無いだらうかね、彼いつも却々喰へない女だから其位の事は考へたかも知れない！』時『何うも女同志は僻みがあつて困る、よし／＼ァ何とかするから』時次郎も迂散臭いには違ひないが、眞逆に仇として狙はれるとは思はない、然うでせう、仇討となると大概は親兄弟の仇だ、子も無し兄弟もなし親類もない花房權右衛門、然うかと云つて門人などは三十五日四十九日でも碌々寄付かない位、然うした門人に師匠の仇討など思ひも寄らない事だ、長兵衛もお樂に氣を許させる爲めに、葬式以後顏出しも致しませぬ、何とも判斷し兼て居るのは當り前でございます、其翌日晝少し過ぎ頃、時『三五郎さん』三『何でげすね！』時『俺は是から高田の馬場小瀧橋の方へ用があつて行く、田舍道で人通りも餘りない場所だどうだね俺と一ッ付合つて一緒に行つては吳れまいか、前にも言つた通り俺は二刀流の免許皆傳、た前の身に指一本差させる氣支ないから一緒に行きなさい、引込んで許り居ちやア第一身體の毒になるよと云ふものだ』三『成程田舍道を步くのはのん氣で好いでげせう、お伴致します』時『然うして下さい俺も遠道をするのに退屈がなくてドレ程面白いか知れねへ、おさき着物を出して吳んな』さき『チトお前さん遲いぢやアないかね！』時『武士たるものが用事あつて出掛けるのに、遲いも早いもあるものか』手早く仕度をして一本打込んで家を出る、平生丸腰でゐる時次郎でも、外出の時は必ず一本極め込む、二本差すといかつくなると思ふのか、一本で出るのが常、大塚を出てボツ／＼話しながら來たが、無論時次郎には胸に一物あつての事……。

ラヂオ

…十三日（日曜）…

仙臺 JOHK

△六、〇〇A 國際放送（マルコニー無線通信大西洋聯絡三十年記念祝賀放送！）NBC中繼

△七、一二 日本側 一、挨拶…遞信省工務局長稻田三之助 二、俗曲深川カツポレ…梅坊主一座

△九、〇〇A 氣象通報

△九、一〇A 榮養料理（錦ヒラメ） 榮養研究所

△九、三〇A （子供の時間） 獨唱と合唱 JOAK唱歌隊

△一〇、三〇A 修養講座（釋尊の成道に就て） 文學博士常盤大定

△一〇、四〇B 講演（先覺的大偉人佐久間象山先生） 三高教授林久男

△正午 A 時報 氣象通報 今日午後の番組豫告 告知事項

△〇、三〇A ニュース

△〇、四〇A 放送舞臺劇（滿洲事變 場景…街路の日、線路の爆破、深夜の電話、人情大尉の死、十三と一と）松居松翁作 猿之助…八百藏…納子…芝鶴…其の他大せい

△二、二五 四、一〇A 運動競技（關東軍對關西軍蹴球試合狀況）

△三、四〇A 氣象通報

△三、五〇 經濟市況

△六、〇〇A （子供の時間）（滿洲軍の慰問を終りて） 子爵三島章道

△六、三〇A ラヂオ講座（音の電氣擴大に就て） AK技術部福島辰男

△七、〇〇A ニュース 氣象通報 告知事項 番組豫告

第三回在滿同胞慰安の夕

△七、三〇A 軍歌と喇叭吹奏…陸軍戶山學校軍樂隊

△八、〇〇A 新俚謠

△八、三〇A 漫談（往來の慰問）大辻司郎

△九、〇五A 長唄（京鹿の子娘道成寺）

△九、四〇A 時報 ニュース 氣象通報 番組豫告

廣告

時計職見習生募集 十四五才位 詳細面談 要證人
平町 精幸堂

藤沼醫院
平町紺屋町 電五〇七

七五三祝の御贈答用品
可愛らしいお子様方のお祝着と
御贈答にお使ひ心地のよい品々
平四 ツルヤ 電一四一〇

吉田眼科病院
平町紺屋町

一圓十錢のフランスマルソー會社元詰
マルソー、ブランク
マルソー、ルージ
生葡萄酒
優良にして安價賣行き飛ぶが如し
平二 西村屋藥店 おはなし三番

外科 內臟外科 整形外科 外科一般 醫學士 松永憲一
產科。婦人科 院長 木村寅次郎
平新川町十九
木村病院 電話一六四番

季節料理
海老團子 金三十錢
かに團子 金二十五錢
鳥團子 金二十五錢
牛團子 金二十五錢
おでん辨當 金二十錢
合の子 金三十錢
是非御試食を……
出前は迅速に勉め升
平町 三益 電話三二一番

內科、小兒科
外科一般、婦人科
外科、梅毒、淋疾
皮膚病
市原卯太郎
市原陸郎
市原三三男
平町田町本通
市原醫院（入院隨意）
電話一一四番

融通 低利 蓄積 安心
三年無盡
大藏大臣免許
湯本無盡會社
電話四七番
資本なくても信用無盡
安い利息のなしくづし

ウエル萬年筆
ウエルの金ペンは彈力形狀共に申分なく殊に尖端のイリジウムは其の硬度最高にして永久の御使用に耐へます。
（東京府商工獎勵館試驗部證明）
ウエル萬年筆 ライトインキ 代理店
魁文堂
平町字搖槌小路 電話三一三番

めそ井 金參拾錢
大衆向うな井 金參拾五錢
特上井 金五拾錢
蒲燒（一人前） 金五十錢
右弊店特々の勉强振り御試食の程を御願申上升
江戸川うなぎ食堂
平舘前通り 電話六七七番

七五三帽子均一廉賣
均一 10錢 20錢 30錢 50錢 70錢 95錢 均一
廿二日迄
買よき店平5丁目電353
モリタヤ洋品店

生花教授
池ノ坊流 生花を懇切丁寧に御教授いたします、お遊びがてら御出で下さい。
平町四丁目和泉屋旅館
須藤まつの

父高岡唯一郎儀豫て病氣療養中の處藥石効無く九日午後十時死去仕り候間此段生前辱知諸賢に謹告候也

追て送葬の儀は十二月十四日午後一時自宅に於て佛式相營み申し候

十二月十日

福島縣石城郡草野村

男 文夫

親戚 酒井國三郎 山崎吉平

總代 伊藤淺之助 松本孫右衛門

友人 犬養毅 堀切善兵衛 八田宗吉 石射文五郎 木村清治

總代 山崎與三郎 安島重三郎 白井博之 金成通

滿洲から

本社の慰問に對する謝狀一束

赤裸な陣中動靜雜記
チチハルから奉天への車中
稻村倉雄君（勿來出身）記念の一文

九月十八日午後十時三十分自己半生の歴史を飾る

◇記念すべき　日ともなるであらう日、此日も夕食後の練習を不氣味な空氣の中に終えて點呼もすみ數日を出でずして展開されるであらう、戰鬪を戰友達と語りつつ眠りに就いたのが九時二十分、我々は二日程前から廿一又は廿二日には學良軍と一戰を交へるべしと豫期してゐた、だから其日正午に渡された

◇研ぎ澄まし　た銃劍と鐵兜も當然其時に使用すべきものと思つて氣に留めるものは無いと云つて良い程だつた、それで慕はしい故鄕又妻子（僕にはないが）の事でも見樣と眠りに急いだその夜も週番下士殿は日に燒けて眞黑な顏に夢見ほゝゑむ無心のつはもの達の姸きを聞きつつ巡視された事であらう。時ならぬ

◇非常ラッパ　の音に安らかな夢は破れた、時に十時二十分、飛び起きた私は機械的に三裝甲の被服を着用する暫くして命により二裝に着換へる、二裝甲用となれば警備が平時編成であるだが未だ演習の氣分が拔けない、それでも日頃の訓練が物云ふのか、その行動ははほんに靜かなもので唯だ默々としては準備を急ぐ、突然憐り合はせの○○○○隊にある

◇重砲が一發　又一發と數へる間なく續け打に發射する重砲の實彈射擊は私は初めての事だから恥しい話ですが驚いた、此處に至つて初めて實戰氣分漲る、命後に整列したのが十一時、出發準備終る。聯隊長殿の力強き訓辭あり愈々出發になれば矢野中隊長殿が『日頃練つた腕の力を試す時が來たのだ

◇しつかりや　つて呉れ他に申す事もない』と言葉少き教訓、十九日午前一時十五分東門出發文字通り眞暗な道をそして近きを選んで進む警官隊は一足先に來て租界と商阜地の境で警備をしてゐる。御苦勞樣とお互に交換する間もなくして車で逃げて來た支那將校を捕へて血祭にする、大通に出づるや公安局に突入して局員全部の

◇武裝解除を　行ひ尚も前進して一氣に追擊鐵工廠に突入す、屋根と窓を打破つて入つた、飛び來る彈は頭上を掠めて身邊に唸る、逃げおくれた者を射殺しつつ遂に二時十二分占領。續いて城內突擊に移る、城壁に至るまで交戰數回危險を冒して城壁に接近す、接近せる場所は一昨日將校連が探檢せる地區とて登るには都合がよかつた、敵が多數

◇待ち構へて　ゐて射擊するに違ひないと思ひ乍ら足場を作りつつ事なく壁上に達した。登りながら考へたのに反して犬の鳴き聲一つしない、嵐の前の靜けさか？時折り壁下の燈火を橫ぎる人影に銳い瞳は集中する。北大營の方では盛に銃聲砲聲がする激戰らしい頭の上を銃砲の彈は限りなくうなる。耳が割れそうだ待つ事久しく五時二十分

◇東の空が白　みかけて來る夜明も間近い高く聳ゆた敎會堂の鐘の音は物淋しくも耳に叫く、五時四十分夜は全く明けた。勝利を祝福するが如く輝く旭光を伏拜みて、愈々城內攻擊のスタートは切られた。城內の有名な官公署を息つくひまなく占領また占領、大東門に至るまでの內城を隅まで占領し六時四十分遂に大東門上に

◇日章旗を飜　した、遙に東大營を望むと炎焰は天に冲してゐる。午後四時に至るも消えない、北大營の兵舍が燒けてゐるらしい、占領後の奉天城內を警備する事三日、二十二日午後となり長春に轉戰を命ぜられ奉天市民の熱心な歡送裡に出發したのが五時、二十三日午前二時宿舍關係の一部の人に迎へられて長春驛着二日間の休養を得て二十五日より吉長線の

◇警備に就く、宿舍記念館での生活は餘り贅澤感のがあつた、毎日勤務が濟むと寢轉んで終ふ、是れでなけりや身體がもてないけれど？毎日美食を欲した。御蔭樣で腹に故障を起す。ビールなども正直に書けば每晚の樣に呑んだものだからと云ふて私を責めるも早計と思ふ、明日とも知れぬ命だと戰友に誘はれての事

◇戰友に罪？　を轉嫁する譯ではないが後悔と迄行かなくとも惡びれて居るのだから許してやつて欲しい二十九日に至りにわかに鄭家屯に向けて出發、三十日午前四時着十一月三十日情況變化でチチハルへ引返す第一信として是れまで送ります續きは後便にて（三十日午後九時列車にて）

癒り次第戰線へ
負傷兵富谷汎君（小川出身）
左で書いた勇壯な一文

一寸左の手で申上ます。御慰問として新聞を下さいまして誠に有難ふ御座いました。私も今少し御國の爲働きたく思ひ居りましたが武運つたなく負傷致し鐵嶺衛戍病院に入院致しました。右の手をやられた爲左の手で字を書いて習ひ其の日の仕事と致して居りましたが、今度御社より慰問として新聞を下さる爲充分意屈しのぎが出來ます、有難ふ御座いました。全快次第二度戰場に出て働きますから他事乍ら御安心下さい、先づは御禮迄。

死を決して權益を護る
草野出身　芳賀貞義君

磐城新聞日日御送り被下有り難く御禮申上候。御國を離れて何百里の北滿洲に於て故鄕の報道を得やうとは夢にも思ひ居らず候ひしに今回計らずも貴社よりの御寄贈飛立つ思ひで拜見仕り居り候、故鄕の皆々樣の御蔭樣にて不肖今回の戰ひにも負傷せず又凍傷にもならず軍務に服し居り候、今後も皆々樣の御好意の萬分の一を報ひ申す覺悟にて一意專心軍務に服する所存に之有候、幾多貴き先輩の血を流して得たる滿蒙の利權何うして彼等に渡され候や、我々は死を決して護る覺悟に御座候、先づは亂筆にて御禮迄。敬具

（十二月三日）

平町新風景
記事輻湊休載

計千六百圓
一兩日中發送

平町役場其他各種團體の手によつて纏められた慰問金は合計千五百八十七圓七十六錢で一兩日中發送する事となつた

托鉢して
慰問金募集

豊間の四宗敎家豊間村小野照道、高光舞、增子亮照、村上政雄の四氏は慰問金品募集のため昨十一日から村內を托鉢して居る

渡滿補充兵
郡下から七名

若松留守隊から第二次補充兵として十一日渡滿の壯途に上つた勇士八十一名の內本郡關係者は左記七名である

矢吹力榮（湯本）遠藤英雄（內鄕）蛭田榮（田人）鈴木昇、新妻久平（草野）菅野要一（內鄕）小林隆雄（平）

映畫會の純益を

高久村小學校では既報の如く昨十一日恤兵金募集の映畫會を開催純益金四十三圓を今十二日同村役場に提出した

名譽の戰死者
佐川上等兵の遺骨
十八日湯本驛頭に迎へ
廿一日小名濱で町葬

嫩江の激戰で壯烈なる戰死を遂げた湯本町居住小名濱町出身第二師團騎兵上等兵佐川泰男氏の遺骨は來十七日午後四時三十八分仙臺驛着翌十八日午前中所屬部隊に於て慰靈祭を執行後同日午後二時十五分仙臺發で六時五十一分湯本驛に到着するが當日は小泉湯本、鈴木小名濱兩町長初め在鄕軍人分會外各種團體が驛頭に出迎へ二十一日小名濱で盛大なる町葬を執行する

在滿兵調査

平町の在滿兵士慰問金品は愈々近日中發送する事となつた爲各區長は念の爲左記以外の滿洲駐剳、獨守在隊（本年入營兵は除く）兵の有無を調査する事になつた

片山八郞、緖方四郞、山崎安治、大竹榮一、井上榮市、木村石三、佐藤武、猪狩數三、深谷四三郞

湯本の上水道工事は
來年五月末迄に完成
寸時も早く全町へ淸水をと
堀江工業が晝夜兼行の努力

湯本町の上水道工事は、町の直營に係る鐵管埋設が旣に內鄕村堀坂、湯本町傾城間の工事を了し目下同町市街地へ向け着々進行中なる一面入山炭礦の依託工事に屬する好間村字內の草取入口隧道、高坂地內濾過地、傾城配水池等は何れも堀江工業會社の手により順調に進行中であるが右の內取入口の隧道延長三百間の開鑿は同所の地質が多くの礫を交へた最高の硬度を有する岩石なる爲、三交代を以てする一晝夜の工程往々にして一尺五寸に過ぎざる事ある程該水道計劃の全般を通じ最大の難工事であり同所に於ける工事の向背如何は一に繫つて湯本上水道全般の成績を支配する重大な關係に置かれてあるので同社の責任者たる江口忠一氏は之れが遺漏無き進捗を期すべく過般來自ら陣頭に起つて其の督勵を怠らず而もその竣工期限は明年八月一ばいなるに拘らず全町民の保健衞生上夏季渇水期の水饑饉より救濟すべく『眞の努力とは六月湯本町を淸水にて溢れしむるに在り』の標語を以て全從業員に臨み只管五月中竣工を原則に着々工事の進行を圖りつつあるので町直營の埋管工事にして同時に完了する事が出來れば湯本の上水道は江口氏の計劃通り五月中に竣工し先祖來永い間虐まれ來つた同町の水饑饉は之を轉機として永久に救濟されるものと觀測さる

救護法適用
該當者を調査

平町では各區長により明春一月早々實施される救護法の適用を受くべき貧困、老衰、不具者等の該當者を調査せしめた上近く吏員をして實地調査をなさしむる事となつたが前後の狀況から觀て相當の數に上る者と豫想されてゐる

國庫負擔決定
平町の義敎費
一萬二百四十圓

平町の明年度義務敎育費國庫負擔額は一萬二百四十圓四十錢で就學兒童の增加により前年度より三百三十圓四十八錢を增して居ると

磐炭競技部納會
圓盤投げ瑞典リレーを加へ
明日同礦グラウンドで

過般常磐炭礦聯合陸上競技大會で斷然他礦をリードした磐城炭礦陸上競技部の今年度納會競技會は明十三日午後一時から同礦グラウンドに於て開催するが當日は明年六月二日中央で開催さるる全國實業團陸上競技會の準備として特に圓盤投げと最新のスポーツとして歐米に流行しつつある瑞典リレーの二種目を加ふる筈であると

第一小學　納會野球
尋常五六年對抗

平第二小學校野球部では今十二日午後一時半から尋五六年對抗の納會試合を行ひ終つて卒業生の奮闘を慰勞し來年度の捲土重來を期する事になつた、兩軍メンバーは

尋六		尋五
秋山	投	中川
和田	捕	小林
河田	一	矢野
長瀨	二	永島
草刈	三	岩崎
長川	遊	八代
井上	右	綠川
志賀	中	吉田
小谷	左	中島

第二校屋上に指針

平第二小學校では兒童に正確な方位を知せる爲此程屋上に東西南北の指針を備へ附けた

藥事協會支部計劃
廿日協議會開催

藥劑士藥種商より成る縣下藥事協會は去月十四日郡山に於て之が發會式を擧げたが更に濱三郡の關係者約百名は此程濱三郡支部を作る

べく二十日午後六時から平町四丁目マルトモホールに於て協議會を開催之が具體案に就て協議すると

古貯金帳を買つて溜つた利子を儲ける
尖端的新商賣にお咎め

平町杉平居住志賀利男（五〇）は數ヶ月前より旭商會なる看板を揭げ飯野村上荒川佐藤隆十（二〇）外數名の外交員を郵便局員に仕立て政府の方針だと欺き郡內各所から五十錢位殘つてゐる郵便貯金通帳を買ひ集め印鑑を紛失したものは僞造して郵便局へ行き拂ひ下げを受け利子を儲けて居た事發覺郵便局から告訴されたので平署では今朝來飯野村下荒川阿部英之助外十數名の被害者を呼び出し始末書を取つたがその被害區域は郡下一圓及茨城縣方面に迄亘り金額も少からぬ見込で目下嚴重取調中

辻强盜へ六年求刑
今日平支部の公判

去る九月二十二日午前四時頃內鄕村大字御台境字草刈平の山道に於て同村熊坂フヨ（五五）の通行中を襲ひ咽喉を締めて地に倒し七十七錢入の墓口を强奪した田村郡瀨川村生れ無職前科二犯伊藤金八（二八）に係る强盜事件の公判は今十二日午後一時から平支部に於て中島裁判長係り竹內、關口兩判事陪席、市川檢事關與、大嶺辯護士立會ひ開廷市川檢事は事件の性質上一歩あやまると重大な結果を齎す危險性があり前科も同樣なので嚴重處分すべきであるが失業の境遇を斟酌するとて懲役六年を求刑大嶺辯護士の減刑論あり一時半閉廷言渡しは來十八日午前九時

餅も搗けぬ
貧困者調査

不景氣を愚痴た今年も愈々押迫り餘す處二旬餘りとなつたので町役場では恒例により正月が來たとて餅も搗けない哀れな貧困者、疾病者を救濟すべく今十二日町內各區長に該當者の調査方を依賴したが調査の上救濟を要する向に對しては役場吏員が更に調査を遂げ適當の救濟方法を講ずべく尙ほ同潤會でも之に就き本日午後一時から町會議事堂に於て協議した

第三校の勸善箱

赤津第三小學校長は兒童の善導上二ヶ月程前から校內に勸善箱を設け兒童をして各自の見聞に係る生徒の善行美事を投書せしめ此程開箱した所六年生○が一年生の下駄の鼻緒をたてた、六女○が風の爲寫生中紙が川中に吹き飛ばされたのを見

第一校書初め
各學年の題決る

平第一小學校元旦の書初めの題は此程左記の如く決定した

一年　オメデタウ
二年　竹にすずめ
三年　明るい日本
四年　笑ふ門には福來る
五年　仰ぎ見る鎭守の森
六年　萬世一系皇統連綿
高一　陽氣發處金石亦透　精神一到何事不成
高二　圖南鵬翼何時奮　久待扶搖萬里風

洋服裁縫講習會

平女子靑年團主催平婦人會後援の東京シンガー近藤女史洋服裁縫講習會は來十七日より三日間午前九時から平第二小學校に於て開催するが會費無料で受講者はモノサシ筆記帳を持參あり度いと

料理講習會

家庭榮養料理研究會主催平婦人會女子靑年團後援の家庭料理講習會は十四、五の兩日平陽女學校に開催するが講師は阿美八郞氏で會費二日間八十錢であると

ロロロロロ
鄕土敎育調査

東京帝國大學文學部の鄕土敎育調査部員は來二十二日平第一校を參觀すると

ロロロロロロ
磐中作業科擴張

磐中では本年四月から中學校令新制度に依る作業科を設け一年生に園藝方面の作業を課して來たが成績良好であつたので更に二、三年に工作方面の作業を課すべく生徒各自に木工道具一揃を買はせる事となつた

磐中ユニホーム問題解決す

磐中ラグビー部員のユニホームに就て其の色合が校風の統一を欠くものなりとして一部生徒が抗議した旨既報の如くであるが右は既成チームと同一ならん事を避くる爲己む無きに出でたる結果と判明

○○○○○
耄碌爺を保護

昨十一日午後七時頃平町才槌小路地內を杖に縋つて徘徊する擧動不審な老人あるを巡邏中の平署員が連行取調べた處右は川部村大字上小川無職芳賀熊藏（七四）で甥が植田町の眼病院に入院して居るのを尋ねて行く途中途に迷つたものと判明したが同人は耄碌して一人歩るきが出來ぬので一夜の保護を加へた上今朝引取りの家人に引渡した

○○○○○
高久の横領店員

當時住所不定無職新潟縣北蒲原郡鴻間村生れ兒山榮光（二三）は高久村鍛冶職遠藤爲藏方に雇はれ中此程賣掛金三十餘圓を横領費消し逃走行衛を晦ましてゐたが昨十日平署員に檢擧され目下取調中

○○○○○
好間の潜り桂庵

好間村上好間板木澤田中兵三郞（四八）は營利人事周旋業違反として平署の取調を受けた

平町慶弔錄

△出生　仲間町六五赤津榮藏長男　健

△婚姻　仲間町六五赤津榮藏（二六）茨城縣多賀郡磯原町磯原六一矢代てる（二三）

在滿兵士慰問金品寄贈
役場其他各團体扱昨報後分

南町一（二圓）磐城無盡會社（二圓）淸野キヨ、大嶺庫、山田文一、多氣八重松田卯次郞、松村鐵郞、織田豊太郞、鈴木次郞、上田耕作、若松信吾、諸橋敬一郞、藤澤亀治、松崎博、高野仁平、馬目誠大槻宇八、只野忠康、大和田軍司、川井重之、川井安子（五十錢）增田之齋藤ツキ、亀山晴次、大森勇、橋本喜七、佐藤榮次郞、菊地一、水野宇次郞、小松茂、伊藤彌吉、酒井ミツ、小林美實、小野信一郞、齋藤敬治、大泉信雄、高木ムメ、芹澤鎭江、田中敬吉、芹澤政忠、沼田仙太郞、上田正隆、鈴木喜一郞、野村忠吉、青木利夫、野內辰男岡田伊太郞、小池猪之助河田梅吉、難波睦、馬目雄次郞、兒山達二、石山隆雄、西丸熊吉、石和田由太郞、鈴木留四郞、吉村英賢、橋本長三郞、鈴木祐孝、大泉德四郞、岡山克己、安藤市三郞、關口福、森林寅之助、森山茂次郞、鈴木タケ、佐川芳太郞、齋藤市太郞、上久保ウメ子、織田條三郞織田安次郞、齋藤鐵四郞中野雅子、木部ナツ、大和田興平、根本キン、星恒代、佐川辰次郞、古川無比雄、田中常次、中村フク、鈴木ミツ、井坂辰之介、橋本義司、小野長吉、伊藤乘吉、小野寺軍平、坂本乘次郞、山野邊陽、藤井一、荒木喜太郞吉田五平、武田精一、吉田義雄（四十錢）藥谷信和（三十錢）坂本爲一、大谷末次、關根芳吉、岡田タカノ、中村淸次、小沼辰次郞、小野禎、齋藤定一、岩崎吾逸、大谷松芳、小川鐵四郞、笹川トメ、大平賀喜一郞、熊谷次郞、（以下次號）